

秋ノ八表

小倉へをぐらゝ山のふもとにすまれしことがらいふに
あはれなり風のけしきさへことに覚えて

山おろす嵐へあらしゝのをとのけはしさを

いつならひける君がすみかぞ

小倉山のふもとにて秋の哥あまた讀へよみゝ

侍りしに大井へゐゝ川に紅葉なかれて

井せきの波ことに色ふかくけいきこゝ

ろにそみて秋のおはりの名残へなごりゝおし
くぞ覚えける